



がんセンターだより

第72号
令和6年9月発行

〒362-0806
埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780
電話番号：048-722-1111(代表)
F A X：048-722-1129
HP：<https://www.saitama-pho.jp/saitama-cc/>



基本理念「唯惜命」

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、
先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、
がんで苦しむことのない世界をめざします。

発行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長 影山幸雄

副病院長兼看護部長就任のご挨拶



埼玉県立がんセンター
副病院長兼看護部長
福山 康恵

令和6年4月1日より副病院長兼看護部長に就任いたしました福山康恵と申します。

6年ぶりにがんセンターで勤務させていただくこととなり、懐かしさと共に日々責任の重さを感じています。看護部の統括のみならず、幹部職員としてセンター

内の連携を深め、より良いセンター運営に向けて、取り組んでいきたいと思っております。

私のがんセンターでの勤務は本館6階病棟に就職したことからスタートし、当時は病名を告知して患者さんやご家族と正面から向き合って会話をすることや、フェイススケールなどを用いて苦痛を和らげるために自分に何ができるかを考える毎日でした。東館の緩和ケア病棟に異動してからは、その人らしく充実した日々が送れるようなケアの提供やセンター内での緩和ケア推進に努めました。平成25年12月に新築移転し、「がんで苦しむことのない世界」を目指してスタートしたところに、副部長として2回目のがんセンター勤務となりました。新病院開院記念式典の開催や病院機能評価受審の取り組みは印象深く残っており、今回このような立場で思い入れのあるがんセンターに戻ることができて光栄に思っております。

県立病院は地方独立行政法人埼玉県立病院機構となり4年目を迎えました。病床利用率の向上や働き方改革、経営改善など課題はたくさん

ありますが、当センターの基本方針である「先進的ながん医療を実践する進化する病院・日本一患者と家族にやさしい病院」を目指し、それぞれの職種が専門性を発揮し、患者さんにとっての最善な医療を提供しています。

看護部はスローガンである「認め合い(M)、支え合い(S)、成長する(S)看護部」を合言葉に、看護師として誇りとやりがいを持ち続けられる組織作りを目指しています。看護部の理念である「患者さんの権利を尊重し、質の高い看護を提供する」ことを看護管理者と共に考え、患者さんご家族の思いに寄り沿い、患者さん一人ひとりのその人らしさと生きることを支える看護の実践が、がん看護の質向上に繋がるものと信じております。

歴史のあるがんセンターがこれからも進化していけるよう、皆様のお力添えをいただきながら、一層の努力をしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。





リハビリテーション科のご紹介

令和6年4月、当院はリハビリテーション科を新設し、がん専門病院としての機能をさらに強化いたしました。これまで整形外科の一部門として機能していたリハビリテーション室が独立し、新たな科として歩み始めました。リハビリテーション医(科長)1名を筆頭に、常勤理学療法士4名、常勤作業療法士1名、非常勤言語聴覚士1名、リハビリテーション科助手2名の体制で運営しています。

当科の設立により、がん患者さんの生活の質(QOL)向上を目指し、より包括的なリハビリテーション医療の提供が可能となりました。主に以下のリハビリテーションを行っています。

- 1 各科手術例に対する
周術期リハビリテーション
- 2 骨転移・化学療法・放射線治療例に対する
ADL維持・向上のためのリハビリテーション
- 3 ベストサポータティブケア(BSC)例に対する
リハビリテーション

特に注目しているのが、がん治療に伴う運動器への影響、いわゆる「がん口コモ」です。がん治療の進歩により長期生存が可能になるなか、運動器の機能維持・向上は患者さんのQOL向上において重要性を増しています。そのため、がん口コモの予防と改善に積極的に取り組んでいます。



当科の独自の取り組みとして、以下の活動を展開しています。

- 1 平成30年度～
がん口コモ回診によるリハビリテーションを必要とする患者さんの早期発見
- 2 令和3年度～
入退院支援センター(現・患者サポートセンター)によるリハビリテーション必要患者のスクリーニング
- 3 令和4年度～
朝カンファレンスでの Quality Control 活動の実施
- 4 令和4年度～
リハビリテーションリンクスタッフの配備による各病棟との円滑な情報伝達

また教育と研究の両面で、当科は積極的な取り組みを行っています。教育面では、複数の大学から臨床実習生を受け入れ、次世代の療法士の育成に貢献しています。研究活動においては、国内外の学会での発表や、セミナーでの講演、さらには英文誌や国内誌への論文投稿など、幅広い活動を展開しています。これらの教育・研究活動を通じて、がん患者さんのQOL向上に寄与する新たな知見の探求と、その実践に日々努めています。

当科は、がん口コモの予防と改善を通じて患者さんのQOL向上に寄与し、がん専門病院におけるリハビリテーション医療の発展に貢献してまいります。今後とも、患者さん中心の質の高いリハビリテーション医療を提供してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



◀ より詳しく知りたい方は
こちら！



リハビリテーション科科長兼診療部長就任のご挨拶

このたび、新設されたリハビリテーション科の科長兼診療部長に就任いたしました、小柳広高と申します。がん専門病院におけるリハビリテーションの重要性を深く認識し、その発展に尽力できることを光栄に存じます。

近年、がん治療の進歩により、多くの患者さんがより長期的な展望を持って生活することが可能になってきました。このなかで、リハビリテーションの役割はますます重要性を増しています。適切なリハビリテーションと運動器ケアは、身体機能の回復にとどまらず、患者さんの生活の質(QOL)を向上させ、より充実した日々を過ごす力となります。

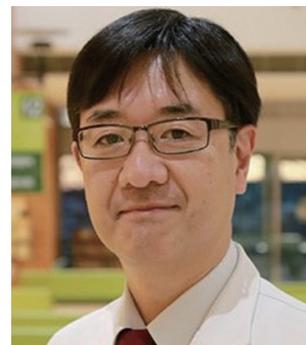
当科では、がん治療に伴う副作用や合併症による機能低下に対し、適切な運動療法や日常生活動作の訓練を提供しています。これらのリハビリテーションを通じて、患者さんの身体機能の維持・向上を図るとともに、心理面での前向きな変化を促進します。その結果、患者さんが望む生活を取り戻し、治療に対する意欲を高め、社会参加の機会を広げることが期待できます。私たちは、このような包括的なアプローチによって、がん患者さんのQOL向上に貢献してまいります。

今後は、リハビリテーション科としての独自の取り組みをさらに推進し、がん患者さんのQOL向上に寄与する活動を強化してまいります。特に、骨粗鬆症性椎体骨折のリスク因子の評価やその予防に関する研究、がん骨粗鬆症外来診療を進め、がん患者さんの日常生活動作の維持・改善に努めます。さらにこれらを発展させ、がん患者さんの運動器を包括的にサポートできる体制の構築を目指します。

これらの取り組みにより、患者さんがより自信を持って日常生活を送り、家族や友人との時間を大切にし、個々の生きがいを追求できるようサポートしていきたいと考えています。

リハビリテーションは、がん患者さんに新たな可能性をもたらします。私たちは、患者さん一人ひとりが、がんと向き合いながらも、自分らしい人生を歩んでいけるよう、リハビリテーションの知識と技術を駆使してサポートしてまいります。リハビリテーション科の発展と患者さんのQOL向上のために、スタッフ一同、日々研鑽を重ねてまいります。

私たちは、患者さん一人ひとりのニーズに応じた、効果的かつ思いやりのあるリハビリテーション医療を提供し続けます。皆さまのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。



リハビリテーション科
科長兼診療部長

小柳 広高





埼玉県×伊奈町 がん市民公開講座開催報告 523人参加！6月14日（金曜日）に開催しました。

埼玉県立がんセンターと厚労科研究班が主催、埼玉県立病院機構が協賛、伊奈町と埼玉県が後援の下、市民公開講座を埼玉県民活動総合センターで開催いたしました。

伊奈町・大島清町長や埼玉県立病院機構・岩中督理事長の挨拶から始まり、がんミニレクチャーとして、“みんなで支えるがん診療（影山幸雄病院長）”、“うちの家系はがん家系？～男性65%、女性52%（吉田玲子腫瘍診断・予防科副部長）”を行いました。そして、埼玉県出身で吉本興業所属のはんにゃ。川島章良さんに、“まさか…。32歳でがん告知～嫁に支えられた僕～”を講演いただきました。埼玉県の地元の方を中心に、現地とWEBで合わせて523人が参加され、中でも埼玉県初の試みである、学校教育での“がん教育”として、伊奈町の小・中学生

270人が授業の一貫として教室から参加してくれました。アンケート回収率は70%で、“がんは怖い病気だと思っていたけれど、正しく向き合うことが大切” “このような機会を是非またがんセンターに作って欲しい”といったご意見が寄せられました。誰もがかかる病気、その中で男性65%、女性52%がかかる“がん”について、がん予防や遺伝性腫瘍の内容を含めた“がん啓発”を行う大変貴重な機会となりました。



「看護の日」イベントについて



皆さま、がんセンターXに登場したフローレンスに会いましたか？

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日を含む

5月9日～5月15日を看護週間とし、ホスピタルストリートに「看護の日」の趣旨を紹介したポスターとナイチンゲール像、生花を飾りました。今年は、各部署の看護自慢のパネルを展示し、患者さんやご家族に各部署の特徴ある看護を知っていただくよい機会になりました。

5月30日は、将来看護師を目指す12名の高校生がふれあい看護体験に参加しました。白衣を着て看護師と共に行動し、看護に触れることで看護することの意味や人の命について考える

ことができました。看護体験後の感想として「HCUの中はモニターがたくさんあってびっくりした。」「身体を拭く時のタオルは、患者さんにあてる前に自分の腕で温度が大丈夫か確かめていた。」など様々な気づきがありました。患者さんへのケアが安全安楽なものになるよう看護師が心がけている細やかな部分を感じとってもらえたことは、看護師自身の励みにもなりました。



今後も「看護の日」イベントなどを通して看護の魅力を発信していきます。



がんセンター
公式SNS



X(旧Twitter)



YouTube

当センターは「全診療科予約制」「紹介制」です

詳しくはHPの受診案内をご覧ください

予約受付時間 平日の午前8時30分から午後5時まで

電話番号 048-722-3333(予約専用電話)

